

平成 21 年度

病害虫発生予報第 2 号

平成 21 年 5 月 28 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

目次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	12
5. 今月のトピックス（イネクロカメムシについて）	13
6. 気象のデータ	14
7. おしらせ	16

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 普通作物

イネでは、葉いもちの発生時期は早、発生量はやや少と予想されます。イネミズゾウムシの発生量はやや多と予想されるので、被害が予想される場合は防除を実施してください。イネクロカメムシの発生量は平年並と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、黒点病の発生量は平年並、かいよう病（中晩柑類）、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量はやや少、そうか病、かいよう病（温州みかん）の発生量は少と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量はやや少と予想されますが、今後の降雨に注意して、予防散布を実施してください。ハダニ類の発生量は少と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量は平年並と予想されますが、今後の降雨に注意して、予防散布を実施してください。

果樹カメムシ類の発生量は平年並と予想されますが、ナシでは飛来を確

認したら、防除を実施してください。

3) 茶

チャでは、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイの発生量は平年並、炭疽病、カンザワハダニ、チャノキイロアザミウマはやや少、もち病は少と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、うどんこ病、炭疽病の発生量はやや少と予想されます。

ネギでは、ネギコガの発生量は平年並と予想されます。

野菜共通では、コナガの発生量はやや少と予想されます。

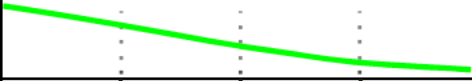
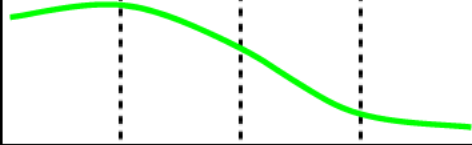
2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	5月			6月	
								下旬	上旬		中旬	下旬
イネ	葉いもち	早	やや少	小	普通	置苗で発生 ↓		本田で発生 ↓		<ol style="list-style-type: none"> 箱施用をしていない場合は、普通は梅雨時期から発生するようになります。 箱施用をしていない補植用置苗は、いもち病の発生源となるので、すみやかに除去・枯死させてください。 発病が認められた圃場では治療効果のある薬剤が有効です。 		
	イネクロカメムシ	—	平年並	小	普通		成虫誘殺数 ↓		被害量 ↓	<ol style="list-style-type: none"> 近年被害が増加傾向にあり、地域によっては重要な防除対象になってきました。 前年発生した圃場では常発するようになる傾向があります。 越冬成虫は圃場周囲から侵入するため畦に近い株から被害がみられます。 		
	イネミズゾウムシ	—	やや多	中	普通		成虫誘殺数 ↓			<ol style="list-style-type: none"> 成虫の発生が平均で株当たり 0.5 頭以上みられなければ防除の必要性はあまりありません。 		
カンキツ	そうか病	—	少	小	低	葉・枝 ↓		果実 ↓		<ol style="list-style-type: none"> 梅雨明けまで、幼果実に感染します。 6月以降は新芽や幼果の病斑から二次感染するので、発生している園地では、予防散布が重要です。 		
	黒点病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 生理落果盛期～後期に予防散布を実施してください。 薬剤散布後、積算で 200mm 以上の降雨があったら、次の防除を実施してください。 枯枝が伝染源です。樹冠内や圃場内の枯枝を除去して下さい。 		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	かいよう病	—	温州少 中晩柑やや少	小 小	低 低					<ol style="list-style-type: none"> 例年発生する圃場や本病に弱い品種では、幼果への感染防止対策として、予防散布を実施してください。 中晩柑類では、梅雨期頃から10月中下旬頃まで、果実への感染が起こります。
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 梅雨期は薬剤散布のタイミングが取りにくいです。マシン油乳剤等を有効に利用する散布を計画して下さい。 ミカンハダニが増加する前に、散布ムラのないように十分に薬剤散布してください。 同一系統薬剤使用は年1回としてください。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 例年被害の多い圃場では、6月上旬～中旬に防除し、その後は30日間隔を目安に次回の防除を行ってください。
ナシ	黒星病	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 発病葉は発見次第取り除き、圃場外へ持ち出して処分してください。 薬剤散布にあたっては、同一作用性を示す薬剤の連用を避けてください。
	ハダニ類	—	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 防除の目安は成虫の1葉当たり寄生虫数が1頭以上の時です。 殺ダニ剤は抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の使用は年1回としてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月		6月		
			平年比	平年比		程度	平年比	下旬	上旬	
ブドウ	べと病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 雨が続くと急激に発生が広がります。降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。 2) 葉裏をよく観察して、病斑を認めたら、直ちに防除を実施してください。 3) 被害葉、被害花穂は、発見次第取り除いて、圃場外に持ち出し処分してください。 4) 薬剤散布にあたっては同一作用性を示す薬剤の連用を避けてください。
果樹共通	カメムシ類	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 圃場をよく観察して、初期の飛来を確認します。夜温が急に高くなると、活発に飛翔します。園地付近の街灯などでも飛来の兆候を観察してください。 2) ナシ等では飛来を確認したら防除を実施してください。 3) 飛来が確認されない圃場では、防除の必要はありません。
チャ	炭疽病	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病原菌は開葉して間もない柔らかい新葉にだけしか侵入できないので、新芽の生育期が薬剤散布の適期です。 2) 二番茶 1~2 葉期に雨が続く場合は、予防散布を実施してください。昨年多発した圃場では特に注意が必要です。 3) かぶせ茶を栽培した圃場では発病する危険が高まります。
	もち病	—	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 雨が続く場合は、山間部では発生が多くなります。 2) 二番茶芽の萌芽期から1葉開葉期の薬剤散布が効果的です。
	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 全体には発生は少ないですが、本年は圃場によって発生の差があるので、注意が必要です。 2) 多発すると防除が困難なので、発生初期の防除が重要です。 3) 葉裏で繁殖します。ていねいに散布してください。 4) 薬剤抵抗性を獲得しやすいため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月		6月		
						下旬	中旬	下旬	中旬	
チャ	チャノホソガ	—	平年並	中	普通	成虫密度		1) 二番茶では成虫発生ピークと2葉期が合致する場合がありますので、三角葉巻が発生する可能性が高くなります。 2) 防除適期は、脱皮阻害剤では卵期、その他の剤では幼虫孵化直後の葉裏潜伏期です。		
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	小	普通	成虫密度		1) 本年は、地域や圃場によって発生の差が見られます。 2) 二番茶芽の2葉期までに防除が必要です。 3) 成虫よりも幼虫による加害の方が大きな被害になります。		
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	低	成虫密度		1) 本年は、地域や圃場によって発生の差が見られます。 2) 二番茶芽の2葉期までに防除が必要です。 3) 葉裏に生息しているため、ていねいに散布してください。		
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	中	普通	親株		1) 今後1か月は感染しやすい時期です。 2) 薬剤散布は、予防に重点をおき、発病を認めたときは広がらないようにすみやかに防除をしてください。 3) 葉裏から発生しやすいので、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布してください。		
	炭疽病	—	やや少	小	普通	親株		1) 灌水は、水滴が跳ね返り莖葉に当たらないように行ってください（やさしく手灌水、チューブ灌水）。 2) これから梅雨・高温期にかけて降雨に注意しながら防除を徹底してください。 3) 薬剤散布は、株元まで十分かかるようにし、畝やベンチの両側からも散布してください。		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ネギ	ネギコガ	—	平年並	小	普通	成虫密度 				1) 幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため発生初期からの防除が効果的です。
野菜共通	コナガ	—	やや少	小	普通	成虫密度 				1) 近年、大きな被害は見られませんが、年間 10～12 世代も発生し、繁殖力が旺盛でアブラナ科野菜の重要害虫です。 2) 薬剤抵抗性の発達しやすい害虫なので、同一系統薬剤の連用をさけてください。

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	早	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月22日発表）によると、6月初め頃まで気温が低く(-)、向こう1か月の降水量は多くない(-)と予想 (-)</p> <p>2) BLASTAM（5月24日現在）によると、感染好適日が5月22日に初出現（平年5月29日）（発生時期-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（5月第3半旬）では、置苗での発生率0%（平年0.47%）と平年並の傾向（発生時期±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は無～少（概して無）</p> <p>考察： BLASTAM（葉いもち発生時期推定のプログラム）を考慮して発生時期は早、気象条件を考慮して予想発生量はやや少と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 前年8月の白穂発生圃場率は4.3%（5年平均6.6%）と平年並の傾向のため、成虫越冬量も平年並と推測（±）</p> <p>2) 予察灯（松阪市・5月第5半旬まで）では、誘殺数は水田位置3頭（平年0.1頭）で多、畑位置85頭（平年3.8頭）で多（+）</p> <p>考察： 誘殺数は多い傾向ですが、昨年以上に増加する要因はないので予想発生量は平年並と考えます。</p>
	イネミズゾウムシ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯（水田・松阪市・5月第5半旬まで）では、誘殺数は113頭（平年75.1頭）と多（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（5月第3半旬）では、被害株率は41.3%（平年33.5%）と多、株当たり虫数は0.07頭（平年0.06頭）と平年並の傾向（+）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少（-）</p> <p>考察： 一般圃場では少ですが、誘殺数、被害株率を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月22日発表）によると、気温は高くなく、降水量は多くない予想（-）</p> <p>2) 県予察圃（5月中旬）では、発病葉率16.8%（平年33.4%）と少の傾向（-）、発病果率0%（平年0.5%）と平年並の傾向（±）（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（5月第3週）では、病斑は未確認（平年発病度0.1）（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～やや少（概して少）（-）</p> <p>考察： 急増する要因はなく、今後の増加を考慮しても予想発生量は少と考えます。</p>
	黒点病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月22日発表）によると、降水量は多くない予想（-）</p> <p>2) 冬期の落葉は少なく(-)、感染源となる枯れ枝は平年並(±)の状況（±）</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	かいよう病	-	温州少 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、気温は高くなく、降水量は多くない予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃における新葉での初発は、5月18日(平年5月10日)と遅い (+)</p> <p>3) 県予察圃(5月中旬)では、発病葉率0%(平年2.0%)と少の傾向 (-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(5月第3週)では、旧葉における平均発病度は温州みかんでは0と少の傾向(-)、中晩柑では1.53と平年並の傾向(±) (-)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は少~やや少(概して少) (-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を考慮しても予想発生量は温州みかん少、中晩柑類でやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、気温は高くなく(-)、降水量は多くない予想(+)(±)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬)では、100葉当寄生虫数は、無防除区で101.1頭(平年25.2頭)と多の傾向(+)、防除区で0頭(平年1.6頭)と少の傾向(-) (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、旧葉における平均寄生葉率は8.4%(平年7.6%)とやや多(+)、1葉当平均寄生虫数は0.22頭(平年0.24頭)と平年並(±) (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~やや少(概して少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と考え、今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、降水量は多くない予想 (+)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と考えますが、今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、気温は高くなく(+)、降水量は多くない(-)予想 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均発病葉率0.6%(平年0.1%)とやや多の傾向 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~やや多(概してやや少、一部地域で多発) (-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ハダニ類	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、気温は高くなく(-)、降水量は多くない予想(+)(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均寄生葉率は0%(平年0.002%)、1葉当平均寄生虫数は0頭(平年0.02頭)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して少) (-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ブドウ	べと病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、気温は高くなく、降水量は多くない予想 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病は未確認(平年発病葉率0%) (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:5月11日~5月20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ1,134頭(平年146頭)と多の傾向(+)、ツヤアオカメムシ176頭(平年491頭)とやや少の傾向(-) (+)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:4月1日~5月20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ158頭(平年106頭)とやや多(+)、ツヤアオカメムシ44頭(平年8頭)と多(+) (+)</p> <p>3) フェロモントラップ(4月1日~5月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で177頭(平年161頭)とやや多(+)、中間地(津市白山町二本木)で86頭(平年202頭)と少(-)、平坦地(松阪市嬉野川北町)で22頭(平年30頭)とやや少(-) (-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(5月第3週)では、飛来は未確認(平年カンキツ0.3頭) (-)</p> <p>5) 一般圃場では、カンキツでやや多、ナシで少、カキでやや少(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 今後、ナシ等への飛来が始まると考えられ、予想発生量は平年並と考えます。</p>
チャ	炭疽病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、気温は高くなく、降水量は多くない予想 (-)</p> <p>2) 前年巡回調査圃場(10月中旬)では、発生量は発病葉率0.2%(平年3.7%)と少 (-)</p> <p>3) 巡回圃場で(5月第3週)では、平均発病葉数0(過去5年平均0.0)と平年並の傾向 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	もち病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、気温は高くなく、降水量は多くない予想 (-)</p> <p>2) 前年(10月中旬)の一般圃場では、発生量は平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 巡回圃場(5月第3週)では、発病葉数0(平年0.0) (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、気温は高くなく(-)、降水量は多くない(+) 2) 県予察圃場(5月上旬)では、寄生葉率は、0%(平年9.3%)と少、平均寄生虫数は0.0頭(平年0.68頭)と少(-) 3) 巡回圃場(5月第3週)では、平均寄生葉率は4.6%(平年7.0%)、平均寄生虫数は0.02頭(平年0.30頭)とやや少の傾向(-) 4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と考えますが、気象条件による今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、降水量は多くない予想(+) 2) 県予察圃フェロモントラップ(3月第4半旬~5月第4半旬)では、誘察数は676頭(平年1,356頭)とやや少の傾向(-) 3) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えますが大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第1半旬~5月第4半旬)では、誘察数は17頭(平年値5.9頭)とやや多(±) 2) 巡回圃場(5月第3週)では、平均寄生虫数1.0頭(1.0頭)と平年並(±) 3) 一般圃場では、発生量は平年並</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、今後の増加を考慮しても、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察吸引トラップ(4月第1半旬~5月第4半旬)では、誘察数は883頭(平年2,191頭)と少の傾向(-) 2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均寄生虫数は2.9頭(平年9.3頭)と少(-) 3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察: 現在の発生状況は少と考えられますが、今後の増加を考慮しても予想発生量はやや少と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、気温は高くなく、2週目を中心にかなり低いと予想(+) 2) 一般圃場での発生は少~やや少(概して少)で、親株床での発生も同様の傾向(-)</p> <p>考察: 現在の発生状況は少と考えられますが、気象要因を考慮して予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	炭疽病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、気温は高くなく(2週目を中心にかなり低)、降水量は多くないと予想(-)</p> <p>2) 現在、親株床で特に目立った発生はなし(-)</p> <p>考察：現在の発生状況はやや少と考えられますが、大きな増減の要因はないので予想発生量はやや少と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、降水量は多くないと予想(+)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月5半旬~5月4半旬)では、誘殺数は248頭(平年156.6頭)と多(+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、被害葉率0%(平年0.13%)と平年並の傾向(±)</p> <p>4) 一般圃場での発生量は平年並(±)</p> <p>考察：現在の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
野菜共通	コナガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、降水量は多くないと予想(+)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月5半旬~5月4半旬)では、誘殺数は102頭(平年476頭)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場での発生量は平年並(±)</p> <p>考察：大きな増加要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

	平年値 ↓					
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「イネクロカメムシについて」

1 イネクロカメムシを知っていますか？

斑点米カメムシ類は水稻の重要害虫です。ところが近年、斑点米カメムシ類でないカメムシが水稻の重要害虫になってきました。イネクロカメムシといいます。

イネクロカメムシは直接減収をもたらします。時には斑点米も作るので品質も低下し、多発生の圃場では踏んだりけったりの惨状になります(図1)。



図1 手前は激発して全面白穂

発生した圃場には毎年侵入するようになる傾向があるので、被害が出てからあわてないようにイネクロカメムシの理解を深めておきましょう。

2 どんな虫？

成虫は体長1cm弱の大きさで、真っ黒な小判型です(図2)。幼虫は薄茶色をしています(図3)。年に1回しか発生しません。成虫が林や土手で越冬し、5~6月に水田に侵入して産卵し、新しい成虫は8月中頃から現れます。



図2 成虫(土で汚れている)



図3 幼虫(軟らかい)

3 被害の見分け方

大きいカメムシですが、日中は株元にひそんでいるのでよく探さないとみつけられません。分けつ期には、葉先のちぢれ等の被害を目安にすると見つけやすいでしょう。成虫と幼虫が共に水稻の茎から汁を吸うので、吸い痕が黄化(図4)するのが特徴です。

6月頃： 葉先のちぢれ(図5)、葉を横断する傷(図6)

7月出穂までの被害： 葉先枯れ(図7) 葉を横断する傷、株萎縮

出穂以後： 穂出すくみ、白穂、下葉枯れ、株萎縮、株の枯死、登熟不良

収穫時： 原因をいもち病と間違える人もいる



図4 茎の黄化



図5 葉先のちぢれ(写真:三重県農業研究所提供)



図6 葉を横断する傷



図7 葉先枯れ

4 対策

いもち病と間違えて殺菌剤を散布していると、被害が防げません。正しくカメムシ用の殺虫剤を使えば防除できます。早期発見・適期防除が決め手です。6月末頃の成虫対象が防除適期です。7月中旬には幼虫の加害もひどくなり始めるので、遅くともそれまでに防除しましょう。

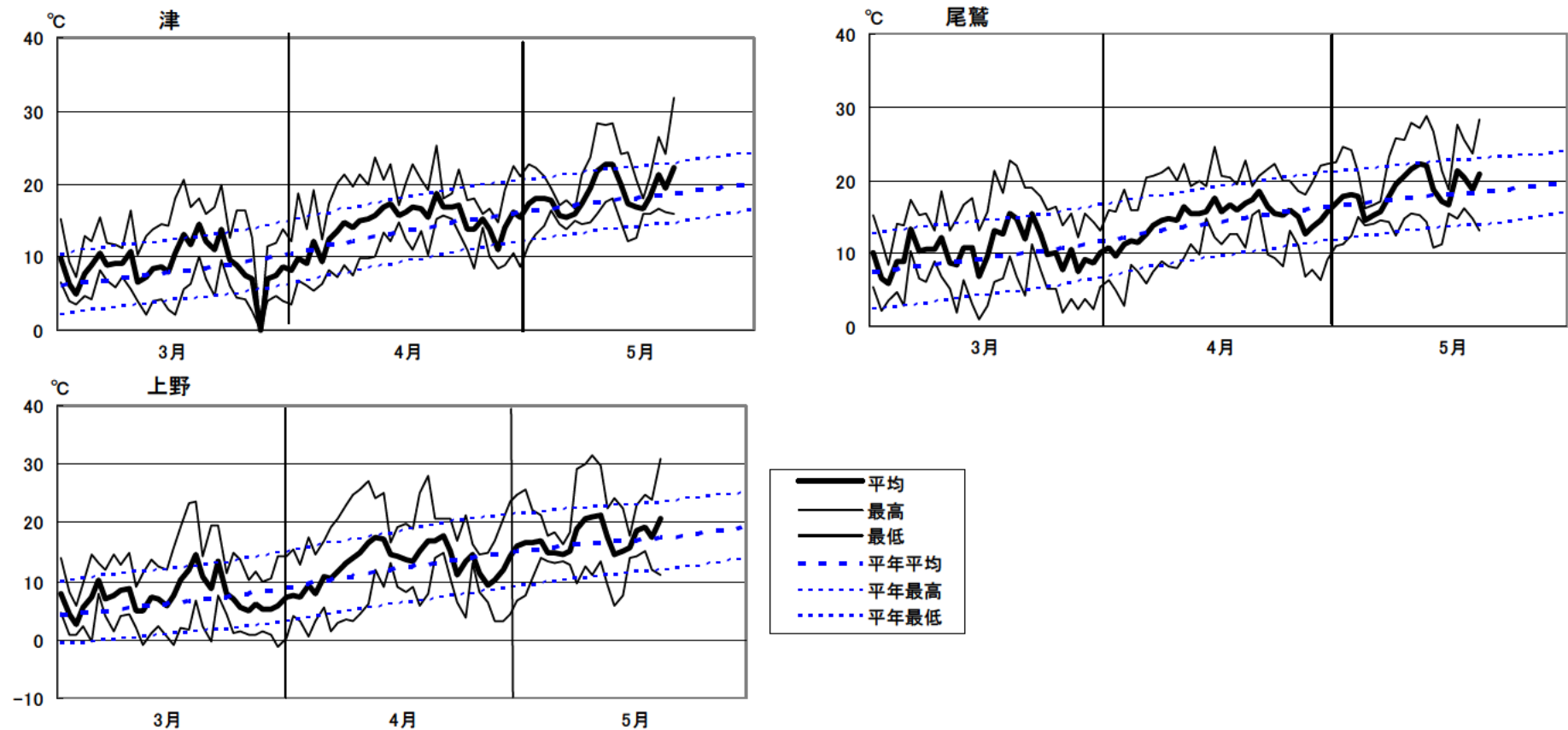
6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 21 年 5 月 22 日 名古屋地方気象台発表)

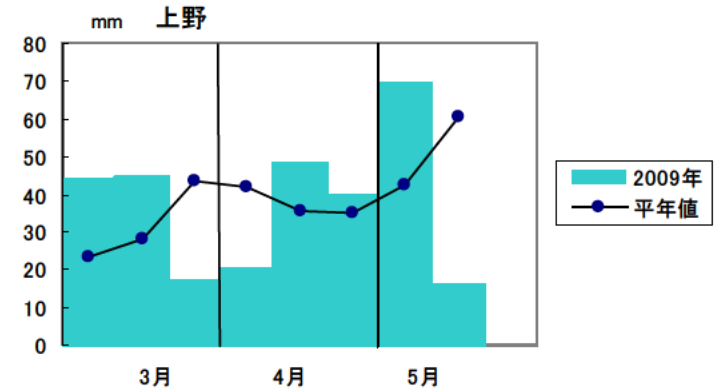
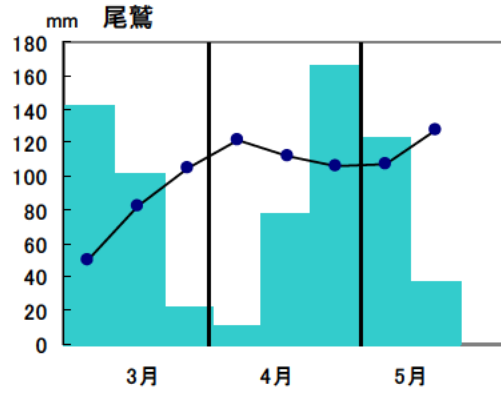
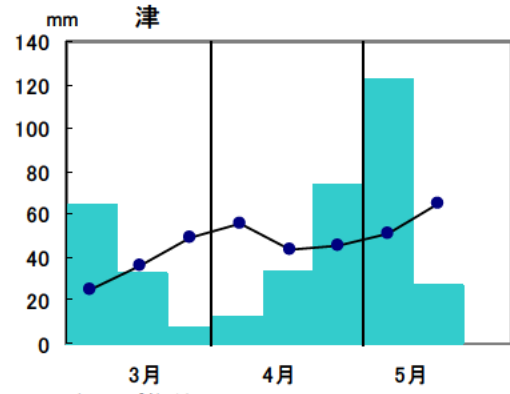
東海地方の向こう 1 か月は、平年と同様に、期間の前半は天気は数日の周期で変わりますが、後半は前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

1 週目 (5 月 23 日～29 日)	向こう一週間は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、気圧の谷や上空の寒気の影響で雲が広がりやすく、期間のはじめに雨の降る所があるでしょう。	晴れ日数の平年値 約 4 日
2 週目 (5 月 30 日～6 月 5 日)	天気は数日の周期で変わるでしょう。高気圧に覆われて、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。	同 約 4 日
3～4 週目 (6 月 6 日～19 日)	前線や気圧の谷の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。	同 約 6 日

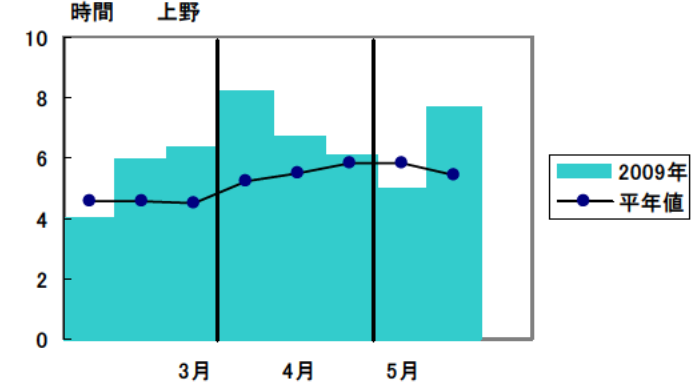
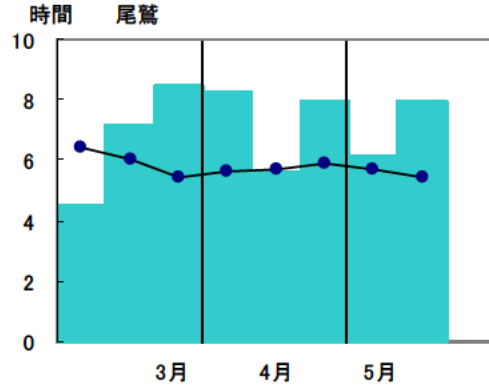
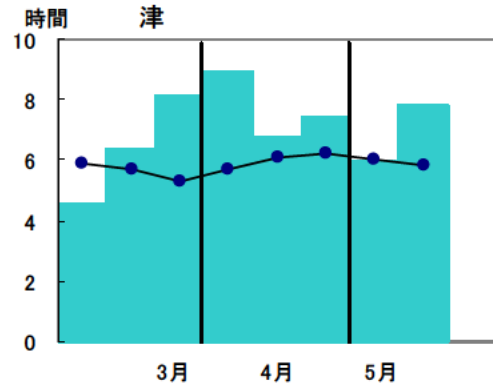
気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 発表日

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月23日(発表済み)	第2回 5月28日(木)
第3回 6月25日(木)	第4回 7月23日(木)
第5回 8月27日(木)	第6回 10月22日(木)
第7回 3月18日(木)	

2) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

3) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記

のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/files/h21yohotebiki_.pdf

4) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

5) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>